

亀山市立野登小学校

No.14

令和8年9月7日

学校教育目標

地域とともに 仲間とともに 生き生きと活動する子の育成

令和8年度全国学力・学習状況調査【4月23日実施】とみえスタディチェック【同日実施】の本校の結果について概要をお知らせします。

全国学力・学習状況調査

全国学力・学習状況調査とは・・・

文部科学省が全国の小学校第6学年と中学校第3学年を対象に、毎年4月に行っている学力と学習状況の調査です。今年度は、国語・算数の2教科について調査が行われました。前学年までに学習した内容が出題され、5年生までに学習したことの定着度を測ることが目的です。各教科45分で取り組みました。また、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（アンケート）もありました。

本校の結果と今後の取り組みについてご報告します。なお、調査で図ることができるのは、あくまでも「学力」の一部分、学校教育活動の一側面を示すものでしかありませんが、調査結果を一つの指標として分析・検証し、子どもたちの確かな学力・豊かな心の育成に向け、引き続き指導に取り組んでいきます。

【全国学力・学習状況調査】（6年生にて実施）からみられる児童の特徴

	国語			算数		
	R8	R7	R6	R8	R7	R6
野登小学校(本校)	60	67	70	59	64	66
全国との差	▼0.9	0.2	2.3	2.6	6	2.6
県との差	▼1	1	3	4	7	4
三重県(公立)	61	66	67	55	57	62
全国(公立)	60.9	66.8	67.7	56.4	58	63.4



本校の平均正答率は、上記の通り、国語はわずかに全国平均・三重県平均を下回っていますが、算数においては、全国平均・三重県平均を上回っています。これは、これまでの学校や家庭学習での積み上げが力になっていると考えられます。地域の方々にもお世話になっている月1回の「のびのびタイム」においても算数教科を中心に既習事項の定着に取り組んできた成果と捉えることができます。しかし、問題別にみると以下のような強みと弱みが見えてきました。

※三重県平均正答率と比較して
正答率の高い問題（○）と低い問題（▼）

国語

○比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる問題

○話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる問題

▼資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題

（右に問題を掲載）

▼引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題

(2)

【動画の一部】

二 同野さんたちのグループは「構成メモ」をもとに、「中①」を次の動画の一部のようにさつえいしました。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

4 映像で示したくき笛の鳴らし方を伝えるために、草花の一部を具体的に取り上げて説明している。

3 映像で示したくき笛の鳴らし方を伝えるために、注目してはいくつもの動作を合わせて説明している。

2 映像で示したくき笛の鳴らし方を伝えるために、大事な言葉を取り出して説明している。

1 映像で示したくき笛の鳴らし方を伝えるために、大事な言葉を取り出して説明している。

として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

（映像）

（音声）

同野・水谷「音を鳴らして遊ぼう。」

同野「みなさん、この音を聞いてください。」

【ピー】「くき笛の音。」

同野「これは何の音だと思えますか。」

水谷「これはたんぼで作ったくき笛の音です。」

同野「どうしたらこんな音が出るんですか。」

水谷「くき笛は、たんぼの花の部分を取りのぞいて。」

水谷「片方のくきの先をつぶして作ります。」

水谷「つぶした方をくちびるでくわえ、息をふくらませるまうじ角をふきこむと。」

【ピー】「くき笛の音。」

水谷「このように音を出すことができます。」

水谷「くきの長さが変わると、音の高さも変わります。いっしょにふいてみましょう。」

【ピー】「くき笛の音。」

同野「友達といっしょに音を鳴らすと音が重なって、とても楽しいですね。」

算数

○日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題

○単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる問題

○異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題

▼示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる問題（右に問題を掲載）

(2) さくらさんたちは、普遊びを担当することになり、下のように【普遊びの計画】を立てました。

【普遊びの計画】

遊び方について

- 前半と後半に、あやとり、または、かるたで遊ぶ。
- 前半と後半が、同じ遊びでもちがう遊びでもよい。

時間の使い方について

全体で使える時間

準備	前半	休けい	後半	片付け
----	----	-----	----	-----

- 全体で使える時間は 60 分間。
- 準備は最初の 5 分間。
- 前半と後半の間の休けいは 10 分間。
- 片付けは最後の 5 分間。
- 前半と後半の時間は同じ。

【普遊びの計画】を見ると、「前半」の時間は、何分間ですか。
答えを書きましょう。

「みえスタディチェック」の結果

みえスタディチェックとは・・・

これまでに行われてきた「全国学力・学習状況調査」等の解答状況を分析して三重県教育委員会が作成した問題で、県下の小学校4・5年生が取り組んでいます。前学年までに学習した内容が出題され、その定着度を測るものです。また、児童が自らの学習定着状況を確認し、目標をもって主体的に学習に取り組むこともこの調査の目的の一つです。教員側は児童の学習定着状況を把握し、授業改善及び個に応じた指導の充実などに活かしていきます。

5年生は、算数、国語、理科の3教科において、4年生は算数と国語の2教科において取り組みました。4, 5年生ともに、算数科においては県平均を上回っていましたが、国語科においては下回る結果となりました。

【5年生】	国語		算数		理科
R7は4年生の時にやったもの	R8	R7	R8	R7	
野登小学校(本校)	41.1	76	67.6	83.6	50
県との差	▼5.1	17.3	13.2	22.7	2.2
三重県(公立)	46.2	58.7	54.4	60.9	47.8

【4年生】	国語	算数
野登小学校(本校)	38	58.3
三重県(公立)	50.6	53.2

4年生国語 ※2

二 中野さんのグループでは、話し合いて出た意見を次のようにまとめることにしました。

【ア】に当てはまる内ようを、あとの【乙ようけい】に合わせて書きましょう。

【話し合いの出た意見のまとめ】

○ 外国の人に日本について、何をしようかというか。
【乙ようけい】
【ア】に当てはまるように、二十字以上、六十字以内で書くこと。

○ 話し合いの意見から、折り紙の良いところをすべて取り上げること。
【乙ようけい】
【ア】に当てはまるように、二十字以上、六十字以内で書くこと。

※ かい等には、かい等用紙に書きましょう。

【話し合いの意見】 ※ 別ページと同じものです。

中野 今から、外国の人に、日本について何をしようかという話を話し合います。何をしようかという話について、意見のある人はいますか。

西田 わたしは、ゆかたをしようかという話の良い話だと思います。理由は、ゆかたは日本の服で、ほかの国では見られないものだからです。

川口 わたしも、ゆかたは日本をしようかという話の一つだと思っています。外国の人が、ゆかたを写真にとっているのを見たことがあるので、ゆかたは、外国の人にも人気があると思います。

北村 わたしは、和食をしようかという話の良い話だと思います。和食はとてもおいしいし、健康に良いと聞いたことがあります。

小島 たしかに、和食は日本をしようかという話の一つだと思っています。食べ物には食べるとどんな味なのかを知ってもらおうのが大切だと思います。しかし、しょうかいする時に和食を食べってもらうのはおもしろいと思います。

中野 ほかに意見のある人はいますか。

高橋 わたしは、折り紙をしようかという話の良い話だと思います。折り紙は、外国の人にとっては折ることができず、折ったものを記念に残すこともできるからです。

小島 折り紙は、色や模様がきれいなもの良いところだと思います。

（話し合いが終了）

5年生国語 ※1

二 — 線部②「あのー、さっき若い女の人が、ゆかをはいてましたよね。あの人は清そう員さんですか？」とありますが、この質問をしたときの杏の気持ちとして最も適切なものを、一次の【ア】から【エ】までの中から一つ選びましょう。

【ア】 姉にゆかそうじばかりをさせているはっぴさんに、はらを立てていることを伝えたいという気持ち。

【イ】 何も知らない様子で質問すること、姉がゆかそうじばかりしている本当の理由を知りたいという気持ち。

【ウ】 自分が花梨の妹であることをはっぴさんが知っているのか、おそろおそろ確かめたいという気持ち。

【エ】 仕事内容について聞くことで、自分も宮大工に興味があるということを知りたいという気持ち。

国語

※三重県平均正答率と比較して正答率の高い問題（○）と低い問題（▼）

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことができるかを見る問題（4，5年生）
- 文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかを見る問題（4，5年生）
- ▼目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかを見る問題（4年生）
- ▼発言の共通している工夫を捉えることができるかを見る問題（4年生）
- ▼話し合いの内容を正確に捉えてまとめることができるかを見る問題（4年生）※2
- ▼国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解することができるかを見る問題（5年生）
- ▼登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができるかを見る問題（5年生）※1
- ▼報告文を読み手に分かりやすくするための工夫を捉えることができるかを見る問題（5年生）

算数

- 34×27 の計算、6は2の何倍かを求める問題（4年生）
- グラフから冊数を読み取り、示された事柄の間違いを説明できるかを見る問題（4年生）
- 日常的に必要な時間を求めることができるかを見る問題（4，5年生）
- 除法が用いられる場面について、式や数値の意味を解釈することができるかを見る問題（5年生）
- 分数の意味について理解しているかを見る問題（5年生）
- 二次元表に示された数の意味を考え、グラフと関連付けることができるかを見る問題（5年生）
- 分度器を用いて、 180 度よりも大きい角の大きさを求めることができるかを見る問題（5年生）
- ▼複数の棒グラフを組み合わせたグラフから、特徴や傾向を捉えることができるかを見る問題（4年生）
- ▼数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかを見る問題（4年生）※4
- ▼ $4.6 - 0.21$ 末尾の位のそろっていない小数の減法の計算（5年生）

6 次の数直線のア、イの目盛りを表す数を分数で書きましょう。
※かい答は、かい答用紙に書きましょう。



理科

4年生算数 ※4

- 物は形が変わっても重さは変わらないことを体重計の乗り方の場面に適用することができるかを見る問題
- 観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことができるかを見る問題
- ▼定点観測の方法を身につけ、月の位置を適切に記録する方法を理解しているかを見る問題
- ▼水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかを見る問題

2 (2) 図2は、たくとさんのかいた記録カードの一部です。記録カードに、建物がかかれているわけを、たくとさんは、下のように説明しています。たくとさんの説明の(ア)にあてはまることばを書きましょう。
※解答は、解答用紙に書きましょう。



月の見える位置と形をかきおとときに、高さ^{たかさ}と方位^{ほうい}の(ア)になるような建物がないと、同じ場所^{ところ}で観察した月の位置と形を記録できないからです。

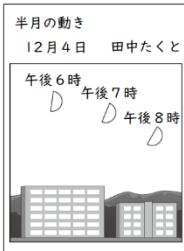


図2

2 (3) 図3は、あすかさんが、別の日の午後8時に満月を観察したときの記録カードです。2時間後の午後10時に、満月はどの向きに動いていますか。図3の(ア)から(エ)までの中から1つ選びましょう。また、その記号を選んでわけを書きましょう。
※解答は、解答用紙に書きましょう。



図3

結果から見えてきた課題と授業における対策

今回の結果を受けて、教職員研修を行い全国学力・学習状況調査とみえスタディチェックの児童の回答状況から、分析・検証を行いました。

下記のように見えてきた教科ごとの課題を克服するために、自分たちの日頃の指導を見直すとともに、成果のみられた点については継続を続け、授業改善を図り個々の回答状況に応じて、学びの定着を図っていきたいと思います。年度によって、問題や受験者が異なるために一概には比較できませんが、課題を真摯に受け止め、全教職員で教育活動の改善を図ってまいります。

国語科

<課題>

- ・拾い読みしかできていない。長い文章から必要な情報を読み取ること（何が問われているのか）の理解ができていない。
- ・長い文章を読み慣れていないため、問題文及び文章を最後まで読み切っていない。その結果、文の途中で判断してしまったり、正誤の判断を誤ってしまったりしている。
- ・文脈から意味を推測する力が弱い。また、読み取った内容を自分の知識とつなげたり、他に書かれた情報と結びつけたりする力が弱い。

<授業における対策>

- ・読書や文字を読む機会を増やす。
- ・問題に対する経験不足解消のため、AI型学習教材 Qubena（キュービナ）や学-Viva!!に取り組む。
- ・指導事項配列表をもとに、身につけるべき内容を明確にして授業に臨む。
- ・日々のふりかえりや自分の感じたことなどを日常的に書いて整理したり表現したりする時間を設定する。また、条件を設定して考えを書く機会を増やす。

算数科

<課題>

- ・条件を読み取ったり整理したりする力が弱い。
- ・順序立てて思考する力や説明する力が弱い。

<授業における対策>

- ・キーワードを意識した説明活動や記述活動を授業に取り入れる。
- ・文章や問題から分かることを一人ひとりが自分の考えを、テープ図や数直線に表すなどして整理する時間を設ける。また、立式の根拠を自分の言葉で説明する機会を増やす。



理科

<課題>

- ・体験したことを言語化しきれしていない。
- ・学校で学んだことを日常生活に活かしたり、日常生活の中での経験と理科での学習を関連付けながら考えたりすることができていない。

<授業における対策>

- ・実験した後や器具を使い体験した後には、そこから分かったことや自分の考えを文章に書く活動を多く取り入れる。
- ・実験から分かる「結果」と、そこから考える「考察」を区別して指導する。

今回の、全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックの結果、児童質問調査の分析を通して、子どもたちの具体的な学びの姿を振り返り、どのような力をつけていくことが大切かを話し合っていました。私たちが子どもたちに育みたいのは、「**自分で決めて、あきらめずに進む力**」です。小学生の今だからこそ、人から言われて勉強するのではなく、「**自分はどこが苦手かな？」「どうすればもっと得意を伸ばせるかな？**」

と、自分自身で考えて学習を進める経験をたくさん積ませたいと考えています。最初から上手くいくわけではありませんが、壁にぶつかったり、思うように進まなかったりしながら、そこで立ち止まらずに「**次はこうしてみよう**」と粘り強く取り組むことで、子どもたちは本当の自信をつけていきます。自分の得意なところをさらに輝かせ、苦手なことにも「**まずはやってみよう**」と一歩を踏み出せる、そんな「**自立した学び手**」になれるよう、一人ひとりの歩みに寄り添い、粘り強く応援してまいります。

